5時間目　国語

学習のめあて　みんなで詩を読んで、考えましょう。

人権読本「じんけんの詩（今野敏彦編著　明石書店刊）」より

こんなことあったでしょう・・・・

「女のくせに　なんだ」といわれた人はいませんか。
「女は　いれてあげない」とあそびにいれてもらえなかった人はいませんか。
「おまえ　とうさん　いないんだってな」「だから　おまえくらいんだ」なんていう仲間はいませんか。
「チビ」「ノッポ」「デブ」「ヤセッポチ」「ブス」などなど　あなたはいわれたことはありませんか。
あるいは、あなたが　こうしたことばをいったことはありませんか。
おとうさんやおかあさんの　お仕事を　わらう仲間はいませんか。
あなたが　わらったことはありませんか。
「びんぼう人のくせに」などと　いわれたことはありませんか。
逆に　あなたがいったことはありませんか。
「どこの学校へいってるの？」ときかれて「○○学校」とこたえたら
「なんだ○○学校か・・・・」といわれたことはありませんか。
また　あなたの　両親が学歴がないということでわらわれたことはありませんか。
農村で生まれ育った人が「いなかっぺ」とか「いなかもの」といわれているのをきいたことはありませんか。
「子どものくせに　だまっていなさい」といわれたことはありませんか。
あなたがあなたのおじいちゃんやおばあちゃんに「としよりのくせに・・・・」などといったことはありませんか。
からだの不自由な人を　からかったり　わらったりしたことはありませんか。
よその国からきている子どもたちを　なかせたりしたことはありませんか。
自分たちと皮膚の色のちがう人たち　まったくわからないことばをはなす人びとを
あなたは「へんな人たちだ」とおもったことはありませんか。
にほんの町にすんでいる韓国・朝鮮人の子どもたちに　いやがらせをしたことはありませんか。
「同和地区」に生まれた人たちの　わる口をいっていてるのを
きいたことはありませんか。
エイズに感染している人に　差別の目をむけている人はいませんか。

この詩を読んでいかがでしたか。怒りを感じた、悔しい気持ちになった、つらくなった等自分の「差別を受けた経験」と重なることがあるのではないでしょうか。でも、それと同時に「人にしてしまった」という心当たりもあるのでは。誰もが、「差別する側」にも「差別される側」にも立つ可能性はあるのです。だからこそ、いっしょに正しく学び、手をつなぐ社会、すべての人が共存・共生できるまち「人権のまち」を目指さなければなりません。

帰りのホームルーム

クラスのめあて
学ぼう
つながろう

ここまで、一緒に読んでくれてありがとう。
またいつかやってきたとき、小郡のまちがどうなっているか楽しみだね。

いかがでしたか。わたしたちの身のまわりには、ここでは取り上げなかったものも含め、多様な差別が存在しています。小郡市では、そのさまざまな差別を解消するために中学校区単位で「人権のまちづくり」に取り組んでいます。みなさんも、ご参加いただき、手をつなぎましょう。